

登録コード	L1641102	開講年度	2026				
担当教員	松本 昇			副担当			
授業科目	心理学特殊実験（心理学実験）						
英文授業名	Psychology：Advanced ExperimentsⅠ						
授業タイトル	心理学特殊実験（心理学実験）						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限 金曜・5時限
講義室	人文205演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につくようになる。			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身につくようになる。			
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーが身につくようになる。			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につくようになる。			
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	認知臨床心理学における研究がいかにして行われるか、その全体的な流れを学ぶ。授業の前半では英語ジャーナルに掲載されたレビュー論文を読み、先行研究の知識を蓄える。その上で、自らの問題意識を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現し仮説にする。さらに、仮説を検証するためのデータ収集の方法を決定し、実験や調査のための手続きや質問紙を構成する。 このような一連の研究遂行をしていく中で、グループ・ディスカッションを行い、自らの問題のみに終始することなく、学んだことを全体の知としてフィードバックすることで、受講生相互に刺激を与え合う授業構成とする。						
授業計画	第1回：ガイダンス：心理学における研究とは 第2回：発表と討論(1) 第3回：発表と討論(2) 第4回：発表と討論(3) 第5回：発表と討論(4) 第6回：発表と討論(5) 第7回：発表と討論(6) 第8回：発表と討論(7) 第9回：発表と討論(8) 第9回：仮説の設定(1)：自らの興味を整理し、リサーチ・クエスチョンとして表現する 第11回：仮説の設定(2)：リサーチ・クエスチョンに基づき、仮説を立てる 第12回：データ収集方法と具体的な実施手続きの決定 第13回：データ収集と解析の方法と具体的な実施手続きの決定 第14回：実験・調査の準備：実験手続きや質問紙の内容をまとめる 第15回：中間発表会・まとめ：ここまでの成果を発表する、授業アンケート 定期試験：なし						
成績評価の方法	授業への参加態度および論文発表の質（50％）と期末に課す中間発表（50％）により、心理学研究の実践方法の理解度を評価する。						
成績評価の基準	中間発表については、「問題」「目的」「方法」「結果」「考察」「引用文献」のそれぞれが明確に項目立てされており、各項目について以下のような内容が記述されていることが必要である。 1.問題・目的で、当該研究で何を問題・目的とするのかが明確である 2.方法で、実験・調査の対象、材料、手続き等の要点がもれなく説明されている 3.分析が、当該研究の仮説を検証するにあたって的確である 4.結果の予測が、実験・調査の内容に即して具体的に示されている 5.引用文献が、所定の表記法（手引き参照）で記述されている 6.発表全体が、自分の発見などを人に伝えるための適切な形式になっている 1～6までの5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目であれば「やや上にある」、3項目であれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	Trends in Cognitive SciencesやClinical Psychology Reviewといったレビュー論文誌を読み込む。さらに、Clinical Psychological Science、Journal of Abnormal Psychology（Journal of Psychopathology and						

事前事後学習の内容	Clinical Science)、Behaviour Research and Therapyなどの一流誌に掲載された研究論文を読み込む。それに限らず、自分が取り組む研究テーマについて、CiNiiやPsychINFOを用いて、広範に検索し、先行研究を見つける。その際、キーワードの設定の仕方を工夫するなどして、繰り返し検索し、自分の関心により近い論文を見つけることができるスキルを身につける。そのようにして見つけた論文を十分に読み、さらに、その論文に引用されている文献も芋づる式に読み、先行研究に関する知識を十分に蓄える。
履修上の注意	「心理学基礎実験」及び「心理学基幹演習」を履修した者を対象とする。心理学・社会心理学コースで卒業論文を作成する者は、心理学・社会心理学コースのいずれかの教員によるこの授業を必ず受講すること。
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にもメールで連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先などについては、初回の授業中に伝える。
教科書	各自、自らの研究テーマに沿った論文を収集し、関連する最新の文献を随時チェックすること。
参考書	授業中に適宜紹介する。